

## 「スズメバチとの対決(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

スズメバチの巣と、自分一人で対決するのは初めてである。体長 3cm 程度とはいえ、相手は恐らく日本第二位の最強の昆虫だ。まずは相手のことをよく知らないといけな



今回軒先に巣を造ったスズメバチは「キイロスズメバチ」に間違いないか、室内でやっつけた個体を、もう一度詳しく観察してみた。体長、体毛、腹や翅の付け根の模様など、どれもキイロスズメバチの特徴と一致している。「対戦相手」がわかったので、まずは、敵の特徴をよく知ることが大切だ。いろいろと調べて、わかったことは以下の通りである。

- ・スズメバチの中では、オオスズメバチと並ぶ、最強の種類。
- ・体長は 2~3cm と、スズメバチ類では最小だが、毒性も攻撃性も非常に強い。
- ・オオスズメバチは集団で狩りを行うことが多いが、キイロスズメバチは通常単独で行う。
- ・オオスズメバチは土の中や、潰れた廃屋の下など、「閉鎖空間」に巣を造ることが多いが、キイロスズメバチは、軒下や樹木の枝など「解放空間」に巣を造ることが多い。
- ・完成した巣の大きさは、標準で 50cm、大きなものは 1m を超えることもある。
- ・中にいる個体数は、成虫・さなぎ・幼虫も合わせると、1 万匹を超える場合もある。



次に巣の現状をよく観察してみた。巣の直径は、推定 15cm 程度。巣の周囲にはハチがたくさん動き回っている。昼は働きバチが出かけていることが多いので、群れが巣に戻ってくる、夕方に個体数を数えてみた。約 20 匹で、まだ初期の段階の巣と推定された。

スズメバチは、通常たった 1 匹で越冬した「女王バチ」が、自ら小さな巣を造り、産卵して子育てする。去年の巣が残っていても、通常再利用はしない。その後羽化してきた「働きバチ」が、巣を拡張しながら、あとから孵化した幼虫の世話もする。働きバチはすべてメスだが、産卵能力はない。女王バチは拡張された巣に次々と産卵し、群れを大きくしていくのだ。

秋の終わりに、初めて「オスバチ」が羽化し、ほかの群れに向かって「結婚飛行」をする。その巣で生まれた「新女王バチ」と交尾し、その新女王バチがたった 1 匹で越冬するのだ。そうなる前に、「雀蜂家の一族」の絶滅を遂行しなくてははいけない。



巣口の位置も重要だ。この大きさの巣だと、通常は一カ所だ。双眼鏡で観察すると、どうやら巣の左下が巣口らしい。この巣口が、駆除の時に重要になる。